

これからのまちづくりについて ～これまでの経緯～

静岡県
平成27年1月29日

いっしょに、未来の地域づくり。New Public Engineering for SHIZUOKA

静岡県交通基盤部

沼津市の概要



◆交通の要所

- ・東名・新東名IC、伊豆縦貫道入口
- ・国道1号・246号・414号の結節点
- ・沼津駅（東海道本線・御殿場線）

◆人口（H27.1住民基本台帳）

202,612人
（浜松市、静岡市、富士市に次ぐ県内4位）

◆銀行事業所数（H21経済センサス基礎調査）

33
（静岡市、浜松市に次ぐ県内3位）

◆事業所数（H21経済センサス基礎調査）

11,971
（静岡市、浜松市、富士市に次ぐ県内4位）

◆高等学校数

11
（東部地域全体45、富士市6、三島市4）

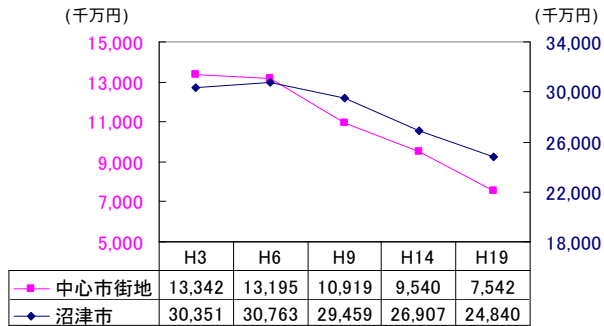
◆昼夜間比率（H22国勢調査）

107.5%
（三島市が96.8%、富士市が99.5%で周辺地域と比較して高い水準）

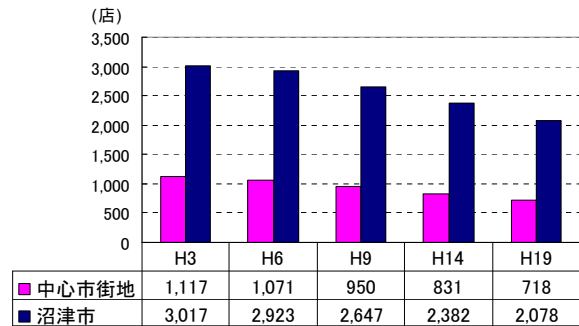
沼津駅周辺の課題 ～中心市街地の衰退～

沼津市全体、中心市街地の商業販売額、商店数ともに減少傾向にあり、空き店舗が増加している。

＜沼津市と中心市街地の商業販売額の推移＞



＜沼津市と中心市街地の商店数の推移＞



[沼津市中心市街地活性化基本計画] より

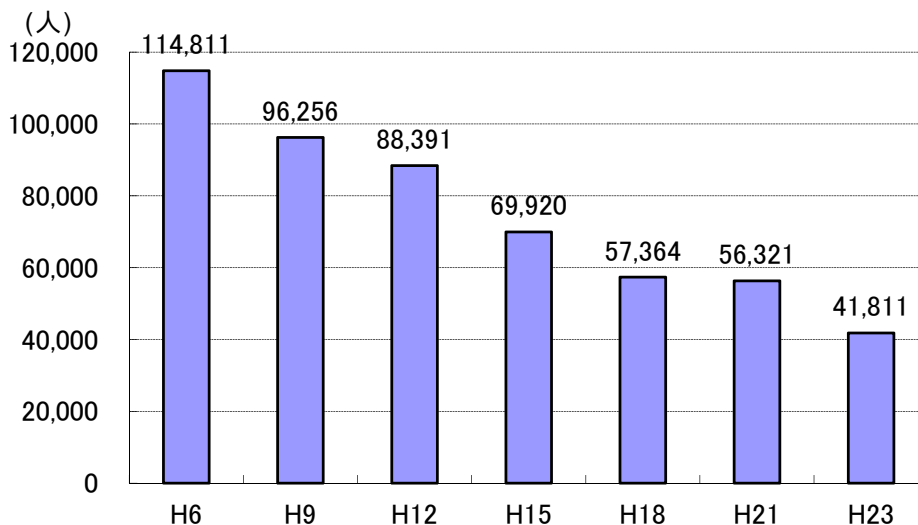
いっしょに、未来の地域づくり。New Public Engineering for SHIZUOKA

静岡県交通基盤部 3

沼津駅周辺の課題 ～中心市街地の衰退～

中心市街地の歩行者通行量が減少している。

＜中心市街地の歩行者通行量の推移＞

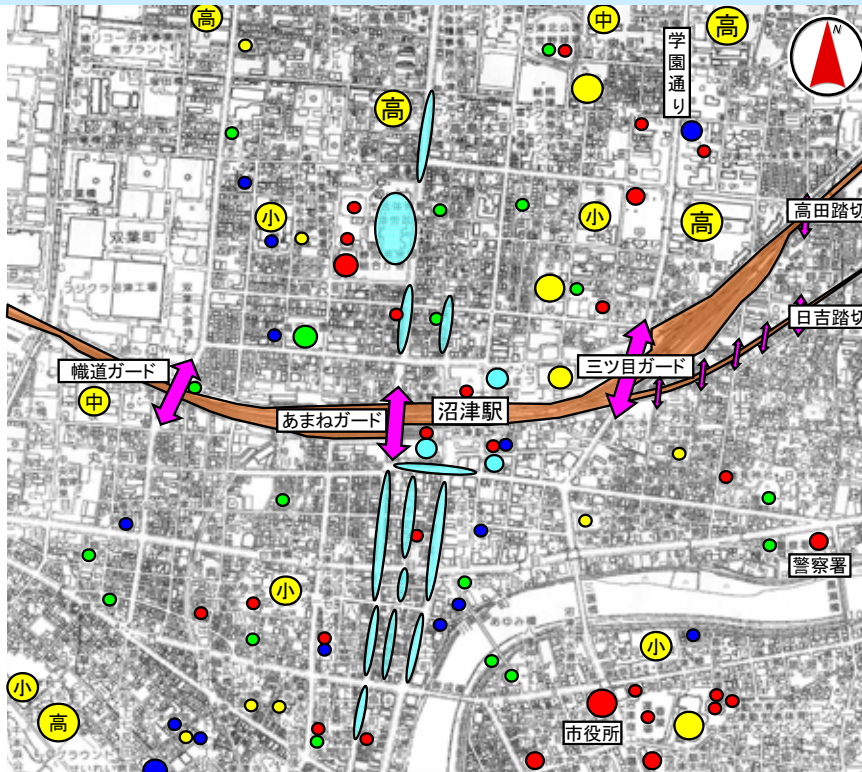


いっしょに、未来の地域づくり。New Public Engineering for SHIZUOKA

静岡県交通基盤部 4

沼津駅周辺の課題 ～南北市街地の分断～

- 鉄道線路により歩行者・自動車の南北間の円滑な流動が妨げられている。
- 3ガードのうち、あまねガードは自転車に乗って通行することができない。



- (凡例)
- ↔ 鉄道横断可能箇所
 - 医療・福祉施設
 - 公園・緑地等
 - 公共・公益施設
 - 教育・文化施設
 - ショッピングセンター
 - 商店街

5

沼津駅周辺の課題 ～交通問題～

鉄道交差部の3つのガードで交通渋滞が発生している。



鉄道交差部ガードの混雑度 (H16年)

	混雑度
三ツ目ガード	2.73
あまねガード	1.89
のぼりガード	2.25

<参考>

沼津市内国道1号

混雑度1.24~1.52

(H17道路交通センサス)



沼津駅周辺の課題 ～交通問題～

鉄道交差部のガード下は、台風などの豪雨で道路が封鎖される場合がある。



いっしょに、未来の地域づくり。New Public Engineering for SHIZUOKA

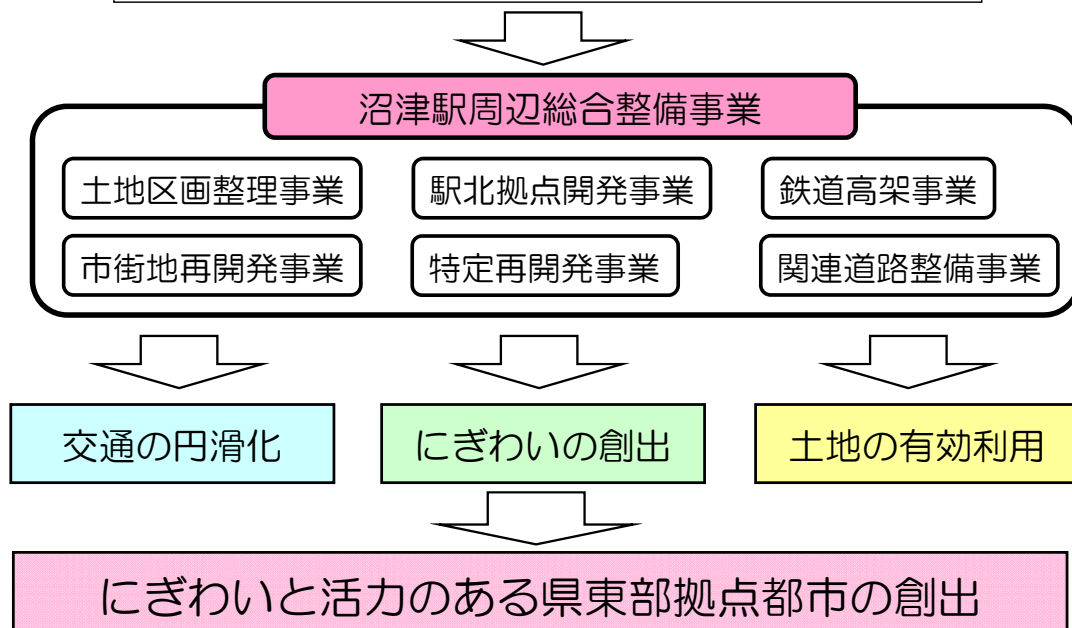
静岡県交通基盤部

7

沼津駅周辺総合整備事業の概要

沼津市中心市街地の現状

- 交通混雑
- 南北市街地分断
- 自転車・歩行者動線不足
- 中心市街地の低迷



沼津駅周辺総合整備事業の概要

昭和58年(1984年)



いっしょに、未来の地域づくり。New Public Engineering for SHIZUOKA

静岡県交通基盤部

沼津駅周辺総合整備事業の概要

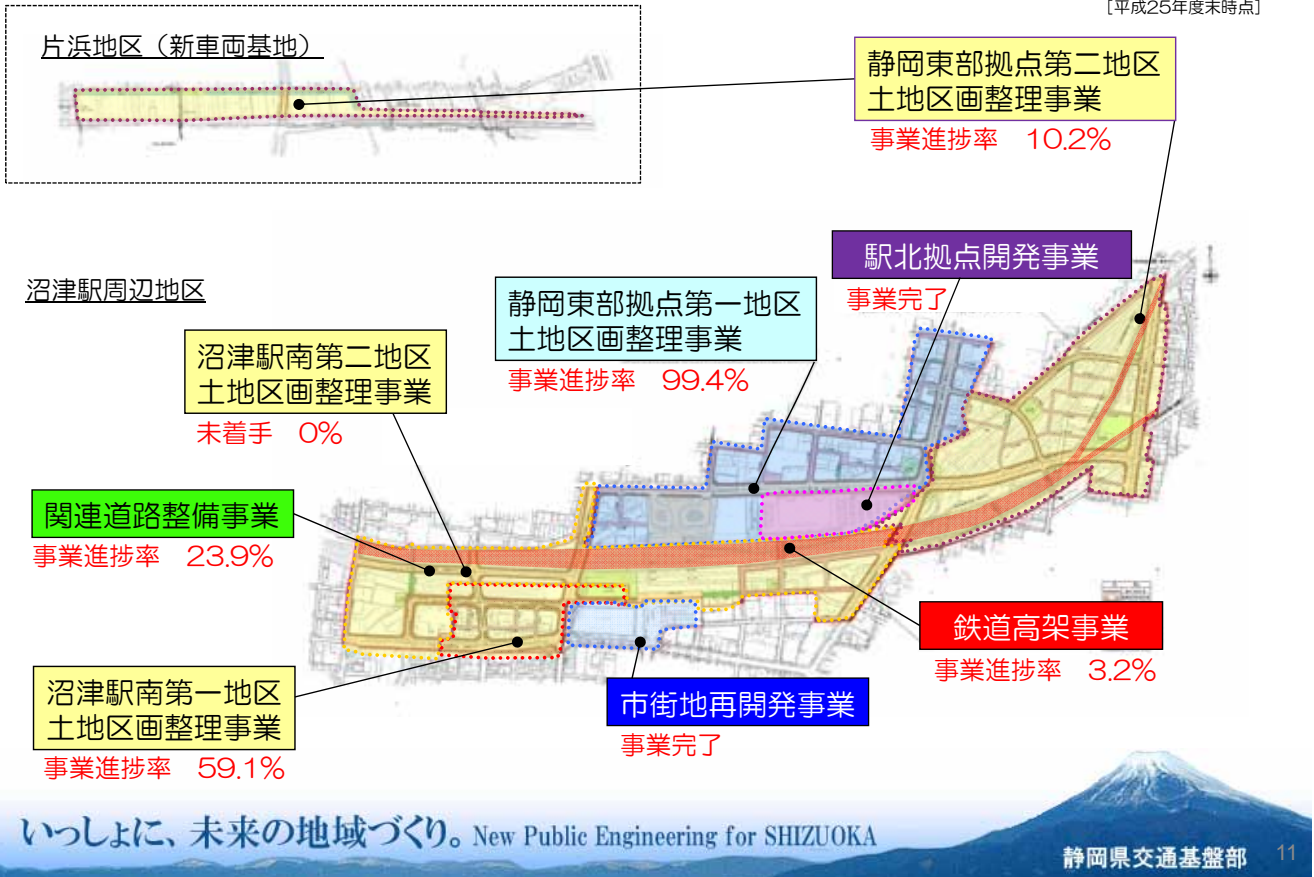


いっしょに、未来の地域づくり。New Public Engineering for SHIZUOKA

静岡県交通基盤部

沼津駅周辺総合整備事業の進捗率

[平成25年度末時点]



これまでの経緯

- H15.1 鉄道高架等の都市計画決定
- H15.12 鉄道高架（新車両基地造成事業）の事業認可取得

H22.9~H23.6 沼津駅付近鉄道高架事業に関する有識者会議

○社会経済情勢の変化を踏まえ、客観的・科学的見地から現行計画をあらためて検証する。

《有識者会議による事業推進方針抜粋》

- ・本事業は、沼津市都心部が抱える諸問題を抜本的に解消し、県東部の拠点都市を形成するために効果的な事業である。
- ・合意形成にあたり、市民参画型計画策定手法であるパブリックインボルブメント（PI）を導入し、専門家の協力を得て、手続きを含めて議論していくことが必要である。

- H23.公共事業再評価実施
- ・費用便益比（B/C）：1.5
- ・評価結果：事業継続

PIによる合意形成に向けた取組（沼津高架PIプロジェクト）

沼津高架PIプロジェクトの活動実績

H23年11月からH25年11月（約2年間）

① 勉強会	17回開催	（沼津駅周辺地区5回・原地区5回・合同7回）
② 車座談議	49回開催	（延べ58団体、延べ参加人数 488人）
③ オープンハウス	27回開催	（54日間 意見聴取人数 2,376人）
④ 広報紙・ホームページ等	広報紙 第9号まで発行 ホームページ・face bookの活用	



H25年11月15日

PI委員会委員長（筑波大学石田教授）から川勝知事へPI報告書等の手交



[沼津高架PIプロジェクト プロジェクトレポート] より

■手交された資料

- ① PI委員会報告書
- ② プロジェクトレポート
- ③ 勉強会における共通認識

13

PIにより選定された推奨案

■推奨案の候補として選定する4案

- （案1）総合整備事業を発展させ、貨物駅の物流機能を活用して原地区を拠点地区と位置づけ、両地区に大きな投資効果を狙う案
- （案2）総合整備事業を発展させ、貨物駅予定地を種地として活用して原地区を拠点地区と位置づけ、両地区に大きな投資効果を狙う案
- （案3）沼津駅周辺地区では総合整備事業を実施せずに課題解決を図り、貨物駅予定地を種地として活用して原地区を拠点地区として位置づけ、両地区に大きな投資効果を狙う案
- （案4）沼津駅周辺地区では整備を限定して事業費を抑え、貨物駅予定地を種地として活用して原地区を拠点地区として位置づけ、重点整備する案

[沼津高架PIプロジェクト プロジェクトレポート] より



「この4案をベース（基本）に1案に絞り込んでいく」

PI勉強会における共通認識

- ① 何も決まらない状態は最も避けるべき
- ② 現状のまま放置するのではなく、地域づくりを早急に進めるべき
- ③ 財政へ配慮し、効率的な事業とすべき
- ④ 沼津市とともに今後とも市民参加による地域づくりを進めるべき

[沼津高架PIプロジェクト 勉強会における共通認識] より

いっしょに、未来の地域づくり。New Public Engineering for SHIZUOKA

静岡県交通基盤部

15

PI後の取組

■関係者（関係機関）

- ・ 栗原沼津市長と会談
- ・ 鉄道事業者代表と会談
- ・ 原地区の地権者らと会談

■その他

- ・ 先進貨物ターミナルの視察 など

■PIの成果

- ・ 市民の意見
- ・ 推奨案の候補4案 など

■知事あてに出された文書

- ・ 陳情 など

+

■最近の情勢（大きな動き）

- ・ 人口減少克服
- ・ 地方創生 など



判断（方向付け）

いっしょに、未来の地域づくり。New Public Engineering for SHIZUOKA

静岡県交通基盤部

16

判断(方向付け)の内容

沼津駅周辺地区

- 沼津市が県東部の拠点都市として更に発展していくためには、現在の貨物駅跡地の有効活用をはじめとする、沼津駅周辺のまちづくりを着実に進めていく必要がある。
- 駅南北の賑わいを発展させていくためには、駅周辺の市街地において南北が一体となったまちづくりを進めていく必要がある。

原地区

- 原地区に最新式（E & S方式）の貨物ターミナルを整備する。
- その際、地元の方々が懸念されている騒音等、生活環境への影響に関しては、万全の対策を尽くしていく。
- 鉄道により分断されている南北地域間の連絡の利便性と防災機能を向上させるため、歩行者用の立体横断施設を先行して整備する。
- また、地元の意見を踏まえ、グリーンヴィレッジを柱とした桃源郷づくりを沼津市と協力して進める。